



ほほえみ 第92号

先月は大阪で震災があり、日本の地震の多さが改めて浮き彫りになりました。阪神淡路大震災のことも、ふと頭をよぎりました。大都市で交通が麻痺すると、大変な状況になることもわかりました。今回、被災された方が、早く日常生活に戻れればと思います。一昨年の熊本に続いて、大きな地震が続いており、防災グッズの点検をしなければとも思いました。

事釈と理釈

今まで、合間の時間を使って、大学、論語、孟子、中庸や伝習録などの白文を書き写してきたのですが、最近、妙法蓮華經を書き写しています。写経というと、和紙に毛筆で行うものですが、形にはこだわっていないので、筆ペンを使ってノートに書き写しています。お経は全般に非常に長いものですが、今は、譬喩品第三(妙法蓮華經は二十八品からなる)です。以前に、観世音菩薩普門品第二十五(観音經)は書き写したことがあります。

譬喩品も、観音經と似たところがあって、事釈と理釈が重要なのだらうと思いつながら書き写していますが、事釈と理釈に関しては、知っていたほうが物事の理解の仕方が深まると思うので、専門家ではありませんが、簡単にご説明したいと思います。

まず、事釈というのは、文字通りに読むということで、観音經の冒頭を例にすると、

もし、この観世音菩薩のみ名を持する者あらば、たとえ大火に入るとも、火も焼くこと能わず・・・
もし、大水の為に漂わされんに、その名号を称えれば、即ち浅き処を得ん。

すなわち、火に焼かれても、水で溺れそうになっても、観音様に助けを求めれば、直ちに救われると書かれています。事釈というのは、書いてあることを事実通り、文字通りに理解する読み方です。

一方、理釈というのは、文字通りではなく心で読む、文字の背後にある精神を読み取ること(観音經講話 鎌田茂雄)です。その際に思い浮かぶのは、二宮尊徳の若き日の逸話です。14歳で、旅の僧が観音經を訓読で読んでいのを一度聞いて、素晴らしさが即座に判ったというものです。尊徳は、もう一度懇願して、つまり二回聞いています。お経は、漢読で読まれることが一般的ですが、たまたま尊徳が聞いたときには、和語(訓読)で読まれており、その一回で若き尊徳は内容を理解したのです。

翌日に、尊徳は近隣で有名な住職のところを訪れて、自分の解釈が正しいか確認しに行きます。その内容自体は伝わっていませんが、住職は「私は何度も観音經は読んだことがあるが、このような意味を持って読めると知らなかった、あなたは素晴らしい、私の代わりに住職になってくれないだろうか」、と言ったと言われています。尊徳の読み方が事釈であったとは考えにくく、理釈であったらうと容易に推測されます。

仮にこんな感じではなかったのか推測すると、火とは怒りの炎、より大きく言えば煩惱の炎と理解するのでしょう。観世音菩薩を真に信じれば焼かれぬ。焼くことが出来なくなるというのが、そもそも火がものを焼くように見えても、実際は燃えるのは、もの自体である。怒りが自分を焼くのではなく、自分自身から怒りの火で燃えるのです。水は、悲しみでしょう。悲しみの深い水で溺れそうになるとき、救い上げられるのではなく、観世音菩薩を信じれば、足が着く場所が見つかると言っているのですね。つまり、どのように怒りや悲しみから救われるかを示しているのでしょう。

尊徳は今で言えば中学生時代にこの解釈をしたのですが、本当に人間を熟知した人物と言わざるを得ません。二宮金次郎像と言え、勤勉実直な人のように思うのですが、実際には、計り知れない大人物ですね。



サッカー ワールドカップ

先月から、サッカーのワールドカップが開催され、大会直前に監督交代のあった日本ですが、予選リーグを勝ち抜きました。初戦のコロンビア戦の序盤から、何かが起きる大会！でしたが、第三戦のポーランド戦でも、ぎりぎりの状況を潜り抜けて、決勝トーナメントに勝ち上がるなど、何か「もっている」チームですね。

今回の大会では、シード国8つのうちドイツ、ポーランドの2カ国が決勝トーナメントに進めず、第4ポット(各予選グループの4カ国のうち、もっともランキングが低い国)からは日本のみが勝ち上がったことを考えれば上出来だと思います。折角なので、初のベスト8を目指してほしいと思います。

→ 7月3日、ベルギー戦でした。惜しかったですね。



満開のピエール・ド・ロンサール

6月は、次々にバラの開花する月でした。予想通り、壁面に誘引したピエール・ド・ロンサールは、圧倒的な開花となりました。元々、世界バラ会議の殿堂入りのバラですので、評価が高いバラですが、私が育てても、このくらい咲きました。

特段に肥料は使用せず、無農薬栽培ですが、日照条件が良く、軒先で雨がかりにくいことがあり、環境が良かったためだろうと思います。昨年は、ベールシュートが4本あり、いずれも3メートル以上のものであったので、開花するだろうとは思っていたのですが、満開となってからは、通りすがりの方も足を止めて、見ていかれることが多かったようです。先日、花後の剪定をしたところです。



MEMO

7月のがん化学療法科の予定

7月3日	診療応援(平出先生)
7月10日	診療応援(工藤先生)
7月16日	海の日
7月17日	診療応援(平出先生)
7月20日	新渡戸稲造記念メディカル・カフェ
7月24日	診療応援(工藤先生)
7月31日	診療応援(平出先生)



今年は、桃が豊作とのこと。旬の果物ですね。